



会報
令和3年6月1日
佐賀市川原町2-27
佐賀県神社庁内
佐賀県神道青年会
編集部

佐賀県神道青年会の機関誌「睦霊」は県神社界情報誌という自覚の元に、昭和二十五年の創刊以来、青年神職自らが発行しています。県内全神職は勿論、神社神道に関心のある多くの篤信の方々を読者としています。混沌の世の中にある現在、如何にしたら奉仕神社を護り、祭祀を厳修し、且つ祖先の霊を慰め感謝する美しい日本の精神文化を次代へ継承できるのかを求め続けています。



会長
古川 勝茂
(金刀比羅神社 官司)

【会長挨拶】

先ず以て、万世一系の皇統を紡ぐ皇室を戴き、尊き大御心のもと国民が心豊かに日々の生活を営める我が国の美しい国柄を誇り、謹んで誠寿の万歳と皇室の弥栄をお慶び申し上げます。また、神宮におかれましては諸祭恙なく斎行されておられますこと慶賀に存じ上げます。

神社庁様をはじめ先輩諸賢並びに関係各位におかれましては常日頃より神道青年会に対し多大なるご指導とご鞭撻を賜っております事、心より御礼申し上げます。

去る令和三年三月十八日に開催された臨時総会におきまして会

長にご選任を頂き、神道青年会会長の大役を仰せつかる事となりました。先輩諸賢が卓越した見識をもって活動を展開し築き上げ紡いでこられた歴史を次世代に受け継ぐべく、その重責に身の引き締まる思いでございます。もとより浅学非才の身であります。斯界の発展のため誠心誠意努力し、会員一同と共に斯道の研鑽に努めてゆく所存でございます。

また、今年には東日本大震災発災より十年の節目を迎える年でもあります。復興が少しずつ進む一方で、まだまだ多くの課題が残っていると聞きします。今もお、困難な状況にある皆様が一日

でも早く平穏な日常の暮らしを取り戻す事ができるよう、祈る心を一つに真の復興に至るまで、活動を行っていかねばならないと思っております。

そして、中今を生きることも、国の隆昌と世界の共存共栄を祈り、神のみこともちとしての責務を全うしてゆく覚悟でございます。

先輩諸賢の皆様におかれましては、私たち会員に対し、これからも変わらぬご指導ご鞭撻を賜りますよう、また会員各位には、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。会長就任の挨拶と致します。

令和三年度

活動方針並びに活動目標

【活動方針】

先ず以て、謹んで聖寿の万歳と皇室の弥栄をお慶び申し上げます。昨秋には立皇嗣の礼が厳粛に齋行され、御代替りの諸儀式が滞りなく執り行われましたことは慶賀の極みに存じます。また、神宮をはじめ各御社頭の御隆昌を御祈念致します。

昨年、七月に熊本県を中心に九州や中部地方など日本各地で発生した集中豪雨は各地に甚大な被害をもたらしました。年々我々の想像をはるかに超えてくる自然災害に対して、今後も神社本庁を始め、神道青年全国協議会、神道青年九州地区協議会、各関連団体と協力し合いながら取り組

んで参ります。

また、新型コロナウイルス感染症の拡大は止まる所を知らず、人々の生活や社会の在り方を一変させるほどの影響をもたらしました。緊急事態宣言の発出など、今も社会全体が大きな不安と閉塞感に包まれています。斯界においても多くの神社で疫病の終息を只菅に祈るのは勿論、御祭神の尊厳護持に努めつつ所謂「新しい生活様式」に考慮した護持運営の形が考えられました。インターネットの活用や郵送による授与品の授与など急激な勢いで変化が進みました。更に祭礼や神賑行事についても規模縮小や形を変えて行われることが多くなりました。それらは本義とは異なるあくまで特例的なもの

なのか、それとも時代の変化に合わせて今後も続く新しい形なのか、単純な善し悪しだけでなく、多角的に捉え考えていかなくてはなりません。青年会の活動においても参集する事自体に慎重にならざるを得ない中、オンラインでの会議や研修会など柔軟に対応して活動に取り組んで参ります。

困難の時代だからこそ青年会として積極的に活動し、会のためだけの活動をするのではなく、必要とされる会、会員が活動に誇りを持てる様に、また充実した活動を行えるよう全力で取り組んで参ります。先輩諸賢の皆様におかれましては、我々会員に今後ともご指導を賜りますようお願い申し上げます。

【活動目標】

一、 青少年教化活動

御田植えや稲刈り、子弟の集い、大麻頒布活動を通して地域・氏子への教化を図ると共に、神社庁教化委員会とも連携を図り事業を行います。

一、 部会活動

今現在形骸化しつつある部会活動を見直し、また、新事業を計画し会員各位の自己啓発を促すような活動を展開する。

一、 英霊顕彰活動

終戦七十六年が経過し、戦後教育において自国の歴史と道徳を教えられていない日本人の多くが、先人たちの努力によって今を生かされていることを忘れ、利己的、利己的な考えに傾倒しているように感じられる。私たちは、日本、また故郷のために身をもって難局に



殉じられた英霊に敬意と感謝の誠を尽くし、御祀りを通じて英霊に学び、尚一層、道徳心を身につけ、世界に対して、また次代の子どもたちにも自国を誇れる日本人となれるように県内外で慰霊祭等の事業を行っていききたい。

一、 自然災害復興支援・緊急時体制の構築

頻繁に発生する自然災害に対して神道青年全国協議会・神道青年九州地区協議会・各関連団体と連携を図り取り組むと共に、自然災害・緊急時の体制作りを行っていく。また災害時の活動に役立ちそうな資格などを取得していきます。

一、 会報「睦霊」発行

神青の活動を各位に広く周知すべく、年一回の発行。



神饌田御田植祭

佐嘉神社

権禰宜 溝上忠秀

令和二年七月二十八日午後二時より神崎郡吉野ヶ里町大曲にて「神饌田御田植祭」が斎行されました。今年は新型コロナウイルスの影響もあり、田植後の神饌田の清祓という形式にて執り行われ、御参列も感染防止の為、アグリベースにいやま御代表者様の二名での祭典となりました。

この日は大雨の予報でしたが、祭典準備が整う頃には雨もピタリと止み、草の音もさやさやに雲の切れ間からは光射す、なんとも清々しい中でのお祭りでした。

植えられた苗は六月の豪雨にも負けず、しっかりと天に向かい

、すくすくと育っており、秋には沢山の実を実らせてくれることでしょう。私たちが日ごろ口にしているお米を始め様々な食物は、生産者様がわが子のように育てられたものです。この、コロナウイルスの影響で、食べ物の流通が滞り、生産者様が泣く泣く廃棄されている姿がニュースで報道されていました。日本をとても心が痛みました。日本を始め、先進国では食べ物に恵まれない、感謝の心が薄らいでいるように思われます。食前、食後の感謝はもちろんの事、外食の際は、お腹が一杯で食べきれない時は、恥ずかしがらずにタッパーで持ち帰りましょう。持ち帰りが出来ないならば、「残してしまつて御免なさい」くらいは言いましょう。

御田植祭とは豊作を祈願するものですが、



生産者様への感謝の心が表れるお祭りでもあるのではないのでしょうか。

来年は、コロナウイルスも鎮まり、毎年恒例の盛大なる御田植祭が斎行されますことを願うばかりでございます。



戦争犠牲者慰霊祭 祖国復帰世界平和祈願祭

榎田宮
彌宜 執行兼正

去る令和二年八月十五日、崎市神崎町鎮座の榎田宮にて、「戦争犠牲者慰霊祭並びに祖国復帰祈願祭」が斎行された。真夏の厳しい日差しが降り注ぐ中、コロナ渦の影響もあつたが、県内神社関係者の方々や多数の氏子総代様にご参列いただきました。

戦後七十五年が経過し、当時の事を知る方々も年々少なくなつてきており、どのようにその悲惨さを伝えていくか課題になっている。私がかつて知っているのは、私の祖父から聞いた話もある

が、教科書や参考資料と言った学校で学べる歴史の中の一つの出来事という印象の方が強く、その想いを深く知る機会はなかなか無かった。

この慰霊祭並びに復帰祈願祭は犠牲となつた方々に思いを馳せ、その想いを継承するための一つの機会と言える。

私たちは今現在、平和な時代を生きているが、その平和は戦時中の多くの犠牲の上に成り立っているものである。戦後、高度経済成長期を経て世界的に重要な位置にまで発展するまで、

昭和、平成、そして令和と、平和な時代が続いている。しかし、世界に目を向けると地域間国家間の紛争や対立、テロの脅威など、世界的な平和はまだ遠いのが現実である。

私たちが戦争を実際に経験するような事はあつてはならないが、先人たちの想いを知り、後世に伝えていく事は現在に生きる私たちが必ずしなければならぬ事である。そして戦争の悲惨さと平和の尊さについてより深く見つめていく事が大事である。





令和二年八月二十八日、佐賀県神社庁二階神殿において歳祝い祈願祭が、宮崎会長齋主以下二名の奉仕にて執り行われました。

この歳祝い祈願祭は、佐賀県神道青年会七十周年事業の一環として始めた祈願祭で、これまで佐賀県神道青年会を受け継いでこられた各先輩方の努力に感謝の意を伝えるべく、僭越ながら各先輩方のご健康を歳祝いという形で御祈念させて頂いておりました。本年も歳祝いを迎えられる各先輩方にご参列いただきました。



歳祝い祈願祭

高木八幡宮
禰宜 大島 仁志

この歳祝いの意味合いも時代とともに変わっていきます。歳祝いは「賀寿」とも言われ、古く中国から伝わった風習とされ、人生五十年と寿命の短かった昔は、四十歳以降から十年おきに「四十の賀」「五十の賀」と祝っていたそうです。

現在の歳祝いといえば、六十歳の還暦から始まりますが、昨今、還暦世代でも現役の人が多いことから、長寿を祝うという意味合いよりも、元気でいることへの感謝と、家族みんながいつまでも仲良く暮らせるようにという願いも込められてい



これから私達佐賀県神道青年会にご指導を頂き、各先輩方が築き上げてこられたものをしっかりと引き継ぎ、次の世代へと繋げて行きたいと思えます。

るようです。



令和二年九月二十四日、抜穂祭を齋行いたしました。参列は、神饌田のお世話をしていただきました、アグリベースニヤマ取締役役古賀洋一郎様を始とした職員

抜穂祭

堀江神社

禰宜 松中朝比古



の方々でした。
令和二年は、新型コロナウイルスによる緊急事態宣言までも発出される激動の年となりました。しかしながら、感染拡大防止の観点から様々な制限の中であつても、私達の食卓には変わらず、お米・野菜があることに、改めて生産者への感謝の気持ちを抱く年にもなったと思います。
今回の奉仕を通して、脈々と受



け継がれる稲作の伝統を肌で感じ、その歴史の中で人が繋いでいることの尊さを再確認し感動した次第です。
今回、御協力を頂きましたアグリベースニヤマ様には深く感謝を申し上げますとともに次年度以降も事業を継続していけるよう、会員一同で努めていきたいと思ひます。

七五三祭奉仕活動

伊萬里神社

権禰宜 加志田崇嗣

七五三、三歳の男女は「髪置」五歳の男子は「袴着」七歳の女子は「紐落」の祝いとして、産土神に参詣し、健やかな成長を感謝し将来の幸運を祈るもの。

去る十月二十八日に佐賀県神社庁にて、三十六回目を迎える整肢学園(以下学園)の七五三祭が行われた。例年であれば、学園の方にて祭典をすることになっていくのだが、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、学園側より厳しいという判断をいただいた。我々も人と接することが多いため、対策はしっかりとしているが、子どもたちを守るとい判断のため無理強いすることは出来なかった。ただ、我々としてはやはり子どもたちをしっかりと祝

いたいという思いもあり、話し合いの中で祭典の様子の写真や千歳飴とともにメッセージを作成することとなった。

祭典当日は、祭典前に当日に奉仕する会員全員で千歳飴の袋詰めを行い、それと同時に最上の舗設も行った。当日は、十六時の開始で宮崎会長を斎主とし、祭員と令人の七名が集まり奉仕をした。私自身、神道青年会での七五三奉仕は初めてだったので緊張感もあった。

祭典後には、メッセージを作



成した。子どもたちには難しい言葉を使用すると読めない可能性があるがあるので、子どもたちが読みやすいように表現を変えるのはなかなか難しかった。さて、近年少子化により子どもたちの数も減りつつあります。各神社でもお宮詣りや七五三が減少傾向にあるなど難しい時代となってきました。特に七五三は子どもの健やかな成長と将来の幸運を祈るための

お祝いなので受けていただきましたのですが、写真撮影のみで終わられる家族もシーズン中みられるようにして減りつつある人生儀礼のご祈願を増やしていくのか、これが課題にもなっています。子どもたちの親の世代にどう語りかけていくべきなのか、まだまだ先が見えない世の中ですが、伝統を残していくためにもしっかりとした発信力が必要かもしれません。





東日本大震災慰霊復興祈願祭

唐津神社

禰宜 戸川健士

東日本大震災より十年を経た令和三年三月十一日、慰霊・復興祈願祭が佐賀縣護國神社主催の元、同境内に於いて執り行われ、神青会員十二名が齋員として奉仕させて戴いた。

この祭典は佐賀若楠ライオンズクラブ様の篤志により佐賀縣護國神社境内に建立された慰霊碑前で行われているもので、平成二十六年より神道青年会が齋員として奉仕している。

昨年は新型コロナウイルス感染症拡大の中、中止となった政府主催の追悼式も今年行われ、震災発生から十年を迎え全国各地で犠牲者の御霊へ鎮魂の祈りが捧げられた。

当日は穏やかな日和の下、午後二時三十分には伶人三管の楽が鳴

り響く中厳かに神事が始まり、修祓、招霊の儀に続いて大祓詞奏上。その後震災発生時刻の午後二時四十六分に合わせ黙祷。次に齋主である徳久俊彦佐賀縣護國神社宮司により祭文が奏上された。祭典では大島仁志会員の舞も奉納され、会員を代表し宮崎貞克会長が慰霊の言葉を読み上げた後、来賓の佐賀県神社庁松中理事様を始め、日本会議佐賀様による玉串拝礼が行われた。

齋主挨拶では、十年の節目を迎えたが今なお被災地では行方不明者が二千五百二十五人、避難生活之余儀なくされておられる方々も約四万一千人いらっしゃるなど、まだまだ多くの支援が必要な事や、この十年間諸外国からの沢山の支援があることも我々日本人は忘れてはならないというお話を頂いた。

また宮崎会長は慰霊の言葉で、青年神職が此の惨事を忘れず後世に伝えていくことが大切であ

るとし、地震に限らず各地で頻発している自然災害に対する備えを日頃からしなければならぬと述べた。

我々青年神職はこの大震災の記憶を風化させることのないよう、今後も犠牲者の慰霊と被災地の一刻も早い復興を祈り続けていく。



厄年・歳祝い早見表 屋外看板用塩ビシート

厄年看板 頒布実績38社

塩ビシート 1枚 6,000円

初回購入時のみ看板の本体にシートをお貼りして
完成した状態で年末にお届けします!!
次回より塩ビシートのみになります。



看板価格比較

佐賀県神道青年会

シート印刷 6,000円
デザイン料 0円
※初回 看板本体付き

※看板のデザインは
規格品になります。

看板店 A (佐賀市)

シート印刷 15,000円
デザイン料 8,000円
※看板本体別料金

看板店 B (佐賀市)

シート印刷 12,000円
デザイン料 5,000円
※看板本体別料金

《 申込書 》

申込先 佐賀県神道青年会事務局長 大島仁志 行

FAX0952-30-9615 申込締切日:令和3年10月31日迄

厄年・歳祝い早見表 屋外看板用塩ビシート 申込書			
神社名			
鎮座地			
電話番号	看板枚数	枚	
いずれかに○をご記入ください		新規購入 ・ 再度購入	